

骨髄採取後、肺脂肪塞栓症が疑われた事例

2003年8月、非血縁骨髄ドナーからの骨髄採取後、酸素飽和度が低下したという健康被害が発生しました。

【経過】

採取終了後に動脈血の酸素飽和度低下を認め、肺CTスキャンなどの検査により、肺の脂肪塞栓症が疑われました。
ただちに酸素吸入、ステロイドホルモンによる治療が行われ、翌日には呼吸状態が改善しました。その後、速やかに社会復帰されております。

【対策】

当財団では、全国の採取施設に対し「緊急安全情報」を発出しました。
また、原因究明と再発防止の観点から調査しましたが、原因を特定することはできませんでした。当財団では、対策として、骨髄採取後、酸素飽和度の低下が持続的に認められた場合には、胸部 X-P 写真、肺 CT 写真、MRI、肺シンチ、血流スキャンなどを実施するよう「安全情報」を発出しました。更に、安全性確保の観点から必要に応じて気管支肺胞洗浄についても検討するよう通知しました。

[緊急安全情報 \(PDF\)](#)

[安全情報\(報告\) \(PDF\)](#)